

教育保育目標: 『心もからだも健康な子ども』

- 意欲をもって行動する子ども ●豊かな感性をもった子ども
- 友達と仲良く遊ぶ子ども ●丈夫で元気な子ども

今年度も園の教育・保育活動にご理解とご協力をいただき大変ありがとうございました

竹の友では新しく定められた「認定こども園要領」に基づき、子どもが創造的な思考や主体的な生活の基礎を身につけるような教育・保育を進めてきました。特に自分づくりに大切な「愛着形成」と「非認知的な能力の育成」を、子どもを主体にした遊びや生活を中心に取り組んできました。

3月に入り5歳児の職員から、「自分のやりたいことが湧きあがり、すべきことがわかったりしてそれに向かって自ら動

き出す心」「目標を達成するためにその方法を考える力」「やろうという意欲や活力」など、園で目指している子どもの姿がたくさん見られたという話を聞きました。

これまでそれぞれの学年で大切にしてきた「子どもを主体にした関わり」の成果が、卒園する子どもたちにたくさん見られようになり、とても嬉しく感じます。

4月からまた新たな体制で、子どもたちの力や個性をさらに伸ばせるような教育・保育に力を注いで参ります。

こんな子どもたちの成長が見られました!

それぞれの学年主任に聞いてみました

【0歳児 たまご組】

お家の方と離れての園生活はどれも初めてのこと。保育者との愛着関係を基にして、十分に満たされ伸びやかに過ごせるようになりました。安心して園で過ごすことができるようになったこと、園生活の“はじめの一步”を歩み始めることができたたまご組です。

【0・1歳児 ことり組】

保育者と愛着関係を基に安心して過ごす中で“自分でやってみよう”気持ちがあぐんと伸びました。片付け、着脱、排泄、手洗いなど身の回りのことができるようになった喜びを共有してきました。人と気持ちが通じ合う経験を通して自分の思いを言葉や仕草で伝えるようになりました。

【1歳児 ひよこ組】

園での生活には「何だろう、どうしてかな、やってみよう!」など、心を動かされる出来事がいっぱいでした。遊具、水、土、絵の具、粘土、紙など様々な素材との出会いを通して、時には繊細に、また時にはダイナミックにと心も体もフル活動で身近な物との関わりを経験しました。人との安心できる関係に支えられ、しっかりと自分の気持ちを表現することができました。

【2歳児 あひる組】

◎そびを思い切り楽しんだ一年間
他の人がやっていることを真似たり「面白そう」と思うことをとことん取り組んだり、一人ひとりが主役の毎日でした。
◎とりでできた!
“やりたい”から“できた”が増えた一年間。うまくいかない葛藤もありましたが、できた達成感が自信につながりました。
◎んるん友達楽しいな♪
友達と遊びたいという気持ちがどんどん膨らんだ一年間。ぶつかり合いを重ねながら友達にも思いがあることに少しずつ気付いてきました。

【3歳児 うさぎ組】

一人ひとりが大好きな人や物、場所を見つけ、安心感を基盤にしながら伸び伸び自己発揮し暮らしてきたうさぎ組。毎日多様な「嬉しい!楽しい!」を見つける達人でした。しだいにその思いを仲間と共有することの喜びを知ってきました。様々な体験の中で人と関わりながら伝えて、試して、また考えて…。日々「わくわく」がどんどん広がり、遊びだけでなく給食や昼寝、生活を共にすることを喜ぶ姿へとつながりました。

【4歳児 ぱんだ組】

発想力、表現力が豊かな子どもたち。自分らしさを発揮しながらやりたいことを友達と楽しんできました。悔しい思いや葛藤もありました。励ましたり、優しくしたり、友達のために考えたり、助けたり、自分もそうしてもらったり…。人それぞれに思いや考えがあること、その人らしさや素敵などころに気がついたり感じたり、心が大きく成長しました。自分の思いを伝える力もぐ〜んと伸びました。友達と育ち、学び合う子どもたちでした。

卒園おめでとうございませす

【5歳児 きりん組】

「やろう」と意欲が湧きあがり、皆で考え話し合いながら遊び、活動・生活を子どもたち自らつくり出してきた一年でした。そして、その中でやり遂げることや充実感をたくさん重ねてきた子どもたちです。
たくさんの個性が自己発揮される中で、時にはぶつかり合うこともありましたが、それぞれの自分らしさを認めることで、遊びも生活も豊かになっていくことを感じていったようでした。協同的な活動を深める中で、自分を信じ、友達を信じ、「やれる」と自信をもって進んでいく力が大きく育ち、今卒園を迎える39名の子どもたちです。



の 予定

- 1日(月) 春季休園・希望保育
 - ~4日(木)まで
 - 5日(金) 入園式・進級式 午後休園
 - 6日(土) 希望保育
 - 8日(月) 進級園児通常保育
新入園児慣らし保育 10:30まで
 - 9日(火) 新入園児慣らし保育 10:30まで
 - 10日(水) 新入園児慣らし保育 正午まで
 - 11日(木) 新入園児慣らし保育 正午まで
 - 12日(金) 新入園児通常保育
 - 13日(土) 希望保育
 - 19日(金) 食育の日
 - 20日(土) 希望保育
 - 24日(水) えいごであそぼう
 - 25日(木) 避難訓練
 - 26日(金) 園だより配布
布団・靴持ち帰り
 - 27日(土) 希望保育
 - 29日(月) 祝 昭和の日
 - 30日(火) 各種たより配布
- ※ 木曜日には幼児ことばの相談会があります

お知らせ と お願い

感染拡大防止にご協力願います

- 園ではまだ新型コロナウイルスが、完全に終息していない状況です。引き続き皆様からはこれまでのようにご協力をお願いします。
- ① お子様の体調をよく観て登園させてください。
 - ② 園への報告をお願いします。
・園児や同居の家族が感染した場合。
 - ③ 職員はもうしばらくマスクを着けて保育にあたります。

入園式・進級式について

- 【入園式】(会場:以上児棟遊戯室)
(新入園児とその保護者、来賓数名、職員は一部のみ参加します。)
9:40~ 9:50
テラスより入り、各保育室で受付
10:00~10:20 入園式
※ 式の後、保育室へ移動
- 【進級式】(会場:各保育室)
(新入園児、進級園児とその保護者)
10:00~10:20
テラスより入り、各保育室で受付
10:30~11:00
進級式 保護者会クラス代表決め



5年度の入園式

もうすぐ「きりん組39名の子どもたち」が、思い出がいっぱいつまった園舎を巣立っていきます。
入園以来日々の遊びをはじめ様々な活動を通して、『目標に向かって頑張る力』『人と関わる力』『気持ちをコントロールする力』など、次の小学校生活で自分を高めていく基盤づくりができたと思っています。
これまで色々な方々からご支援をたくさんいただきました。感謝申し上げます。

保護者アンケート自由記述 園ではこう考えています

園の取組に関するご意見を「保護者アンケート」を通していただきました。ご多用の中、回答いただきありがとうございました。

皆様からいただいた10の評価項目のうち、8項目で90%以上(AB評価)の方が、2項目で80%代後半(AB評価)という高い評価をいただきました。「お子さんが園に行くのを楽しみにしているか」という項目では、昨年を上回る高い評価をいただきました。登園を楽しみにしているという子どもの気持ちは、園での生活が安心して心地よく、充実した日々を送れている証であり、一番大切なことではないかと思っています。

自由記述欄では色々なご意見をいただきました。園の取り組みを応援して下さる記述が多く見られました。見直しや改善が必要と思われることはすぐにも、また検討に時間をかけないといけないところは十分検討した上で、今後の活動に生かしたいと思えます。

自由記述の内容とその回答(⇒園の考えとしてご理解いただきたいこと)

- 行事についてのご意見が複数ありました。
○ コロナで行事が減った。コロナ前の行事を復活して欲しい。行事の数が少なすぎて思い出が少ない。お遊戯会(おたのしみ会)があると嬉しい。発表会もなく運動会もない等々。
⇒ 完全に無くなった行事は親子バス遠足です。バスの中が密になること、バス代が高額で複数園児がいると負担が大きいこと、色んな施設に行かれていた方が多いこと、希望地に賛否が分かれてしまうこと、等からやめています。他に無くなったものはなく行事の形、内容、名称等を変えています。
⇒ 運動会や発表会については、以前からもお伝えしていますが、次のような理由から形や内容、名称を変えて実施しています。

- ① 競技、演技、発表等のねらいが小学校の運動会、発表会に準じたものでした。これまでと同じような運動会や発表会は、運動機能面や心の発達に大きな差がある乳幼児期の子どもには負担が大きく、最近の子どもたちの心身の発達にはプラス面だけではなくマイナスの面が大きくなってきていることが危惧されています(できる・できない、速い・遅い、繰り返し練習・・・等々)。
- ② 認定こども園要領の趣旨に沿って、子どもを主体にした日常活動や行事を進めたい。これまで行事は見に来た人を楽しませる、安心させるためという色彩が少なからずあったように思います。これから子どもに期待される力は自らが主体となって考え行動する子どもです。どうしたらうまくいくか、皆で楽しめるか、人から喜んでもらえるかなど、子どもが主体になって取り組むような体験を重ねて色々な力をつけていくことが大切です。
そういった活動を通して培われた力が、次のステップとなる小学校での「主体的で、対話的な深い学び」につながると考えます。
- ③ 行事のために子どもの負担を過度に超えるようなことを避けながら、保護者の方と共に「子どもの今ある姿を認め・見守り・寄り添う子育て」をしていきたいと思えます。これからも子どもの成長や姿を汲み取っていただけるよう、子どもが主体になって楽しみながら取り組む活動を見ていただいたり、親子で一緒に活動を楽しめる機会を設けたりしていきたいと思えます。

子どもの興味・関心、意欲を引き出す活動を支え、自己肯定感を高めるために教育・保育の主体者を子どもにした生活や行事になるように、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。